

教育

OIST サイエンス トリック ④

私たちのユニットでは児童のADHD(注意欠如・多動症)について研究をしています。私は子どものADHD症状の軽減に向け、親を対象にした効果的なペアレント・トレーニングの開発や検証に取り組んでいます。

ADHDの特徴として、不注意や多動性、衝動性といった症状があります。それらによって社会生活や学業に影響が出ている場合、その子の障害の特性にあったサポートが必要になります。ペアレント・トレーニングでは、ADHDの子もたちが苦手としていることについて親に理解してもらい、行動療法を用いながら適切な行動ができるように訓練し、それを家庭で実践するためのサポートをします。

また、私たちはギリズでADHDの児童のために開発されたプログラムを導入しました。それを日本の家族向けに修正し、親のくちも含めて新たに

島袋静香さん 発達神経生物学ユニット研究員

プログラムを構成しました。子どもをサポートしていく上で、まず親が自身の気持ちや子どもの関わり方を理解し、心理的に健康でなければいけません。ADHDのことをよく理解した上で、親が周囲の人たちとコミュニケーションをとったり、問題解決をしたりするさまざまなことを学びます。

研究室では私たちが開発したペアレント・トレーニングにこれまで参加した約50人の親のデータを分析したところ、さまざまないい効果が見られました。今後は、このプログラムを地域で実施することが必要になります。県内外での実施を予定しており、協力先も探しています。プログラムを運営するリーダーの育成も課題です。時間はかかると思いますが、沖縄から県内外に普及させていきたいですね。

親からの問い

沖縄科学技術大学院大学(OIST)研究員になったのは2010年。アメリカでは子どものつとに特に関心があつた方

沖縄発プログラム普及へ

失敗が成功に

今後は、ADHDだけではなく、自閉スペクトラム症などの重

せりふなどもしていました。が、将来的には地産である沖縄の子もたちのために仕事をしたいという希望がありました。

家族療法学が専門なので、子どもだけではなく家族を含めた支援の研究をしたいと思っていました。日本では、心理社会的支援の研究も十分ではありません。研究室で検査をする中で、親が子どもの行動についての対処について全く分からず、困っていることが多くありました。親からさまざまな疑問を投げかけられるうちに、ADHDの子に合ったプログラムを作ろうと思ったのが研究のきっかけでした。

診断のある子どももいるので、そういった子どもたちの支援にも力を入れていきたいと考えています。

トークでは、私の今までの歩みや経歴も話します。私自身、失敗も多くありましたが、それらをくそにして努力した結果、今の自分があるのだと思っています。若い人には、あせらずに自分のやりたいことに思い切り時間をかけてほしいです。失敗や挫折は必ず成功につながると思いを信じて、頑張っていくしてほしいですね。

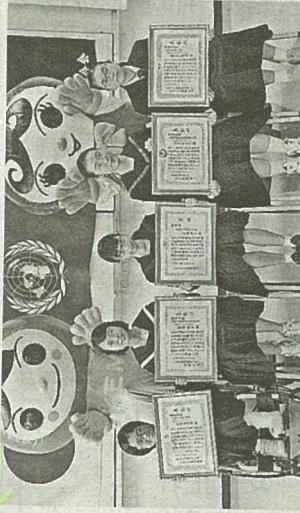
(文責＝奥田ひろこ)

＝毎月1回掲載

豊袋さんのサイエンストークは15年後の時半〜7時半、シンク堂書店那覇店で開かれる。入場無料。



しまぶくろ・しずか 那覇市出身 OIST発達神経生物学ユニット研究員。県立首里東高校卒業後、沖縄キリスト教短期大学から米国ノースウェスタン大学に留学。ミシガン州立大学大学院で修士・博士号(家族療法学)を得。45歳。



が9日、那覇第二地方合同庁舎あつた写真。応募数6520作品の中から最優秀賞に選ばれた6人に賞状が贈られた。

最優秀賞の一つで那覇地方法務局長賞に選ばれた喜納徳子さん「那覇中3年1」の「すべての人が輝く社会」は真代表として参加した全国大会で最優秀賞を受賞した。

小学生の頃から続けている車いすサッカーを通し「人権とは、障害のあるなしに関わらずすべての人が自分らしく生きること」といつか。「作文がたくさんの人に読まれ、みんなが同じように大切に存在してほしい」という夢を書いた。

毎週水・日曜に掲載

意見・問い合わせは

TEL 098(860)3552

FAX 098(851)5300